

令和7年度 第3回横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会 会議録	
日時	令和7年10月21日（火）13：45～15：30
開催場所	よこはま動物園ズーラシア
出席者	（委員）小宮輝之委員、佐渡友陽一委員、藤崎晴彦委員、儀賀 良之委員
開催形態	非公開
議 題	1 令和7年度第2回横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会会議録 2 その他（視察） 3 その他（視察に関する感想）
議事	<p>【議題1】 令和7年度第2回横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会会議録</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動物園事業は赤字のため、指定管理料の算定が適切なのかという話にならないか。 →横浜市が支払う指定管理料のほかの収支策として、どのように入園者数を増やすか、どのようにコストを下げるか、自主的に収益を上げていくのかという論点になる。 →これまでは10年前の物価や賃金水準で算出した指定管理料だったために、昨年度までは大きく赤字になっていた部分もある。次年度からの指定管理料は直近の物価や賃金水準を基に算出しているため、適正な額に近づくのではないかと考えている。 ・承認 <p>【その他】 視察（メガネグマ舎・ホッキョクグマ・オオアライクイ）</p> <p>【その他】 視察に関する感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動物管理について、経験が浅いからといって、飼育が簡単な動物だけを担当すると、作業がずさんになり、油断がクセになってしまう。扉の確認は担当者の目と手で確認をするクセをつけないと本当に恐ろしいことになる。 ・ズーラシアは施設の構造が複雑なので、頭の中で操作がきちんとできるようになってからハイレベルな作業を行わせるというほうが合理的な判断だと思う。 ・ズーラシアは非正規雇用者や新採用職員が多いが、危険動物を原則担当させない運用で、業務はまわるのか。 →新採用となったその年、異動してきたその年に担当させないだけなので、ズーラシアの設備にある程度慣れて習熟度が上がれば、危険動物も担当してもらうことになる。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ダブルチェックがきちんとできるよう、複雑なところは2人で入るという形を常態化する方法もあるのではないかと。新採用職員を2～3年サポートしていく体制の仕組みを考えてもいいのではないかと。 ・ヒヤリハットの共有や、仕事のDX化なども事故防止策となる。コストの兼ね合いもあるが、例えばカメラを増やし、手元で動物がどこにいるか分かるようにするなど。あとは作業する人を縛ることになるが、1つ1つチェックリストを作成する方法もある。 ・以前、別の園の職員機関誌でヒヤリハットを特集し、ベテランの人に執筆してもらったところ、色々な事例が出てきた。今の人だけでなく、昔から働いている人からも出してもらおうとよい。 →ヒヤリハットの共有は、事例を出した内容や人を批判する目的ではないため、正直に事例を出してほしいと職員にお願いしたところ、我々が思っている以上に事例が出てきている。 事例を基に、3園とも共有し、園長も交えて対策を検討した。飼育業務マニュアルは3園共通になるので、改訂にあたっても3園で議論して改訂している。 ・システムチックにやっていくのもそうだが、最終的には日々の安全管理のために人件費を投入するしかない。動物園事業が赤字で収支を改善する必要があることも踏まえ、組織的な問題として受け止めていかなければならない。 →他園と比較し、ズーラシアの非正規雇用の割合が高いのは事実。一方で、人を増やし人件費をかければ良い仕事ができるということでもなく、マンパワーと合わせて、組織マネジメント、両方が改善されることが一番望ましいと思っている。 ・人を増やせば解決できる問題ではないことは理解しているが、安全を向上させるための作業手順の中でダブルチェックを強化するとなると人が必要となる。 ・安全管理については、色々な意見を聞いてこれからに繋げていただきたい。 <p>第4回選定評価委員会：1月に開催予定</p>
配布資料	<p>資料1 第2回議事録</p> <p>資料2 動物・施設管理に係る報告書</p> <p>資料3 令和6年度事業報告書</p> <p>資料4 横浜市立動物園等の指定候補者選定結果報告書</p>